



東北地域における 麦をめぐる事情

令和7年8月

東北農政局生産部生産振興課

1 小麦の生育ステージと主要作業（北東北・ゆきちからの例）

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
小麦の生育ステージ												
	播種期		出芽期 (5葉～6葉まで生育)		越冬期			幼穂形成期・ 減数分裂期		出穂期・ 開花期	登熟期	収穫期
主要作業	種子消毒 施肥・播種 除草剤散布 排水溝設置		雪腐病防除		踏圧			融雪期追肥 融雪水排水		踏圧	病害防除 出穂期追肥	収穫

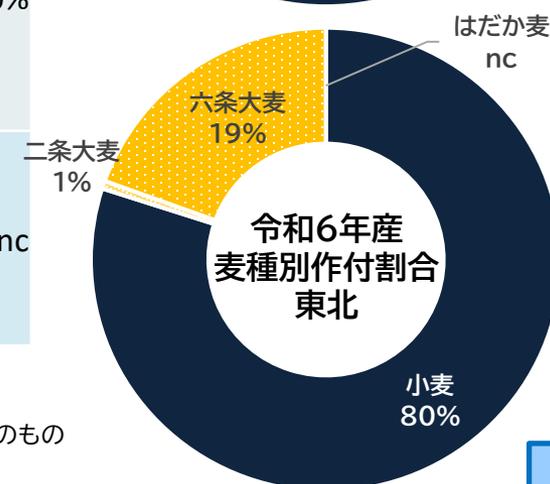
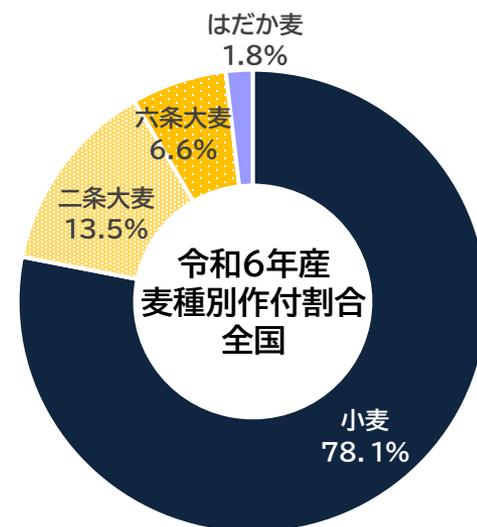
注：栽培時期は北東北の事例。追肥等の回数等の作業体系は地域によって異なる場合がある。主要作業については、農研機構「麦栽培マニュアル」ゆきちからから引用

2-1 国内産及び東北麦の麦種別作付面積

- 全国の令和6年産麦の作付面積は、小麦231.8千ha(作付割合:78.1%)、二条大麦40.1千ha(13.5%)、六条大麦19.5千ha(6.6%)、はだか麦5.4千ha(1.8%)であった。
- 東北地域の令和6年産4麦の作付面積は8.5千haで全国に占める割合は3%程度である。麦種別作付割合は小麦が80%、六条大麦が19%であり、二条大麦の作付は少なく、はだか麦の作付はない。

全国及び東北における麦作付面積(令和6年産)

	4麦計 (ha)		小麦 (ha)		二条大麦 (ha)		六条大麦 (ha)		はだか麦 (ha)	
		全国に 占める 割合		全国に 占める 割合		全国に 占める 割合		全国に 占める 割合		全国に 占める 割合
全国	296,830	100%	231,800	100%	40,100	100%	19,500	100%	5,430	100%
東北	8,517	3%	6,810	3%	47	0.12%	1,660	9%	x	nc



資料：農林水産省「作物統計」

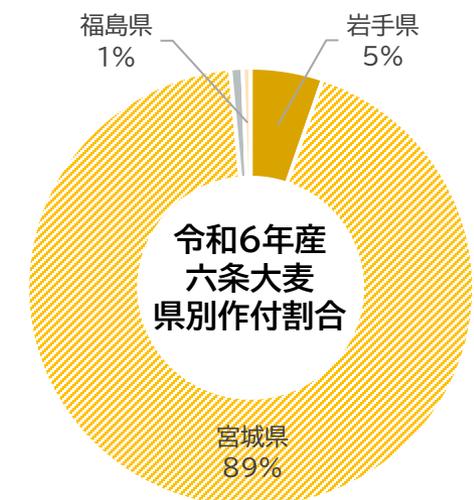
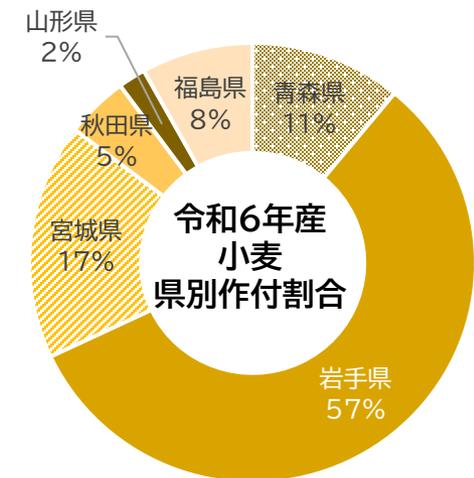
注：表中の「x」は個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため統計数値を公表しないもの、「nc」は計算不能のもの

2-2 東北各県の麦種別作付面積及び収穫量

- 東北地域で麦の作付が多いのは、岩手県(3,963ha)、宮城県(2,682ha)である。
- 小麦の作付面積は、岩手県が5.7割、宮城県が1.7割、青森県が1.1割を占め、六条大麦は宮城県が8.9割を占める。

東北各県の麦作付面積及び収穫量(令和6年産)

	4麦計		小麦		六条大麦	
	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	作付面積 (ha)	収穫量 (t)
青森県	820	x	747	2,130	73	x
岩手県	3,963	x	3,880	9,660	83	253
宮城県	2,682	10,373	1,180	5,230	1,480	5,050
秋田県	310	1,050	310	1,050	-	-
山形県	150	299	136	280	14	19
福島県	582	x	551	1,580	9	18
東北	8,507	23,400	6,810	19,900	1,660	5,680



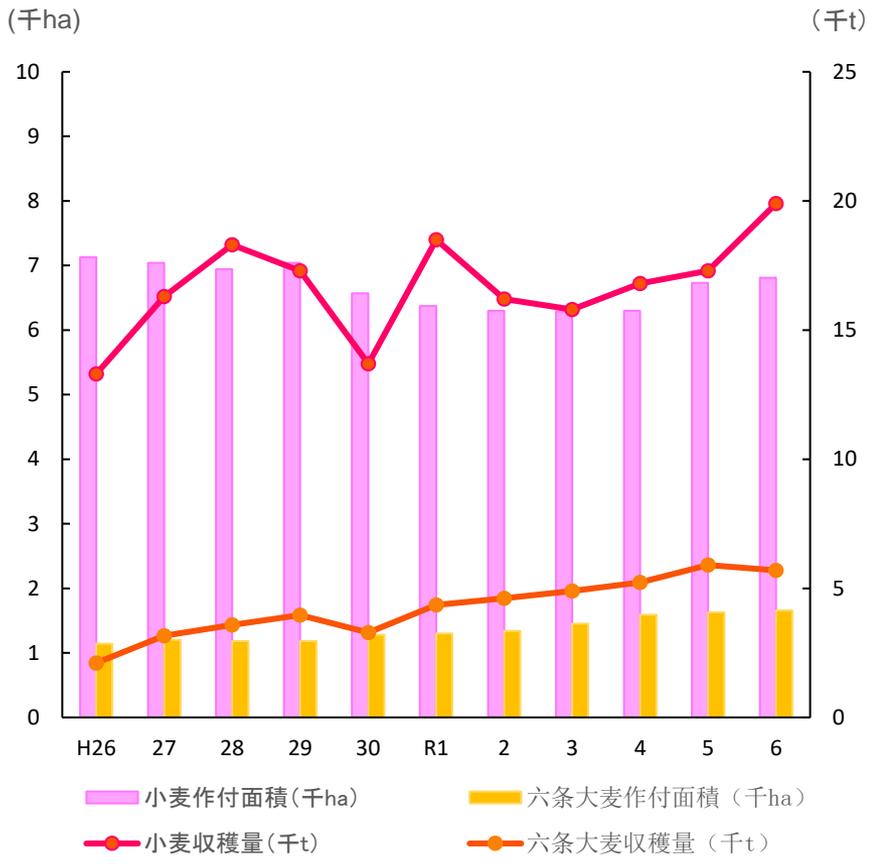
資料：作付面積は東北農政局生産振興課調べ、収穫量は農林水産省「作物統計」
 注1：表中の「x」は個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため統計数値を公表しないもの、「-」は事実のないもの
 注2：二条大麦及びはだか麦は、東北地域での作付けが少ないため除外

注：青森県及び山形県は割合から除外

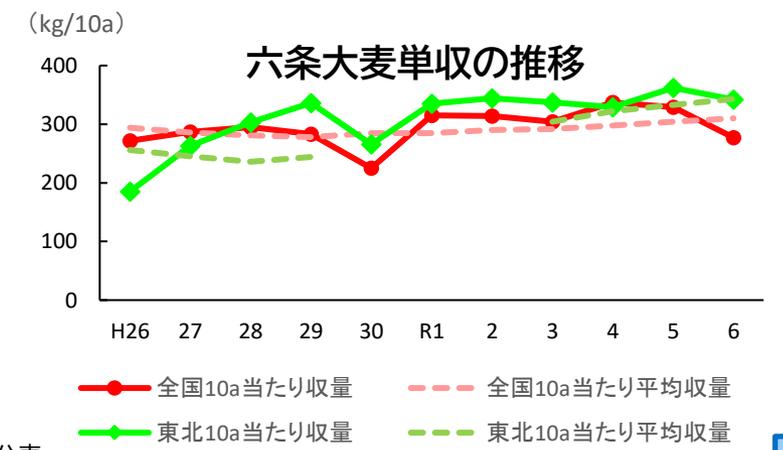
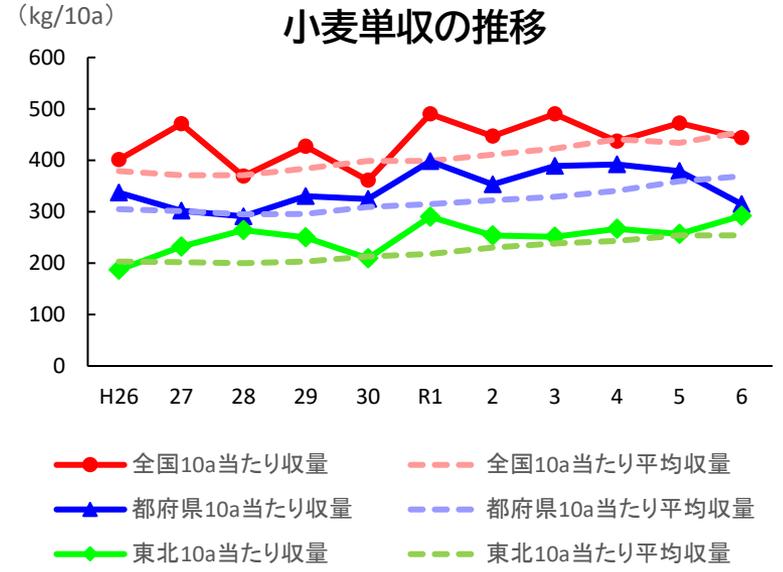
2-3 東北麦の作付面積、収穫量、単収の推移

- 作付面積は、小麦は令和元年まで減少傾向であったが、それ以降は概ね横ばい、六条大麦は平成30年以降増加傾向で推移している。
- 東北の小麦の単収は、全国平均と比較して低く、都府県平均と比較しても低い状況で推移している。
- 東北の六条大麦の単収は、平成28年以降、全国平均を上回った状態で推移してる。

東北地域の小麦・六条大麦の作付面積及び収穫量の推移

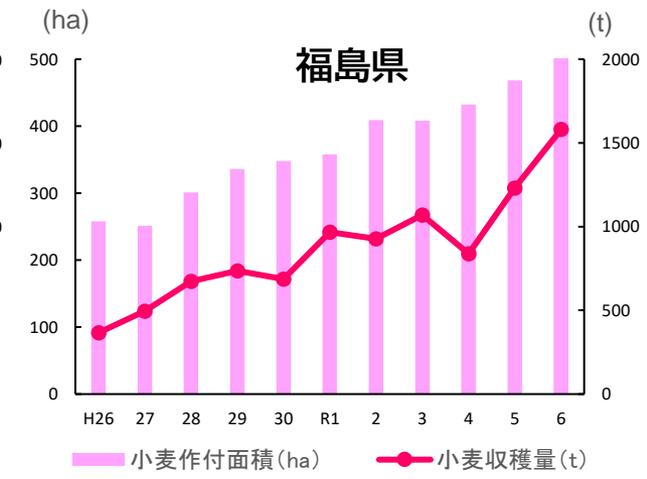
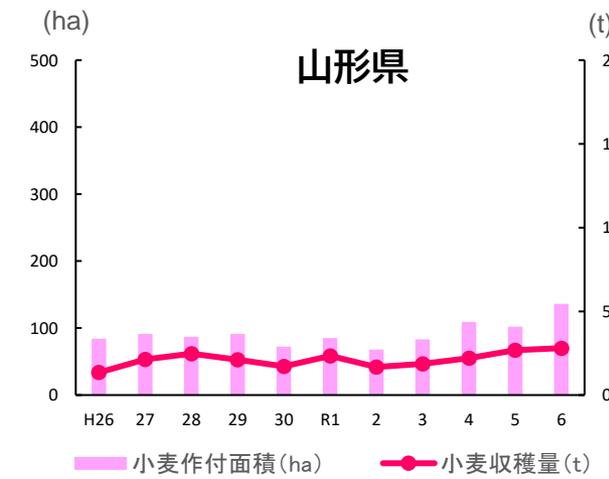
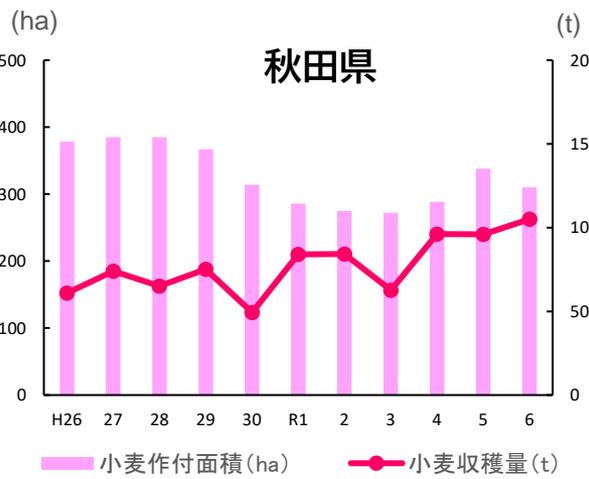
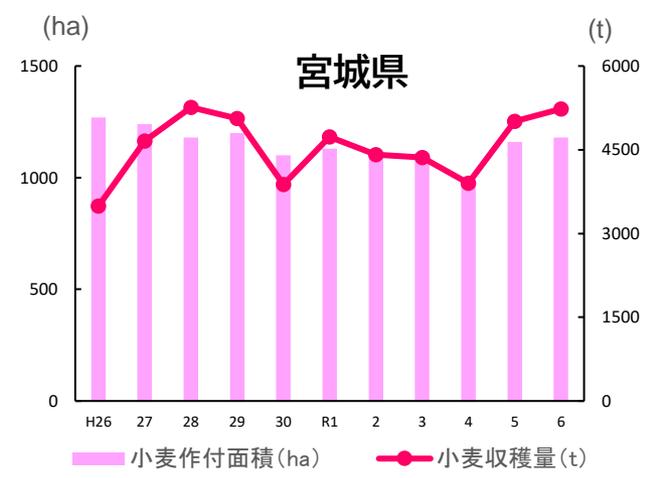
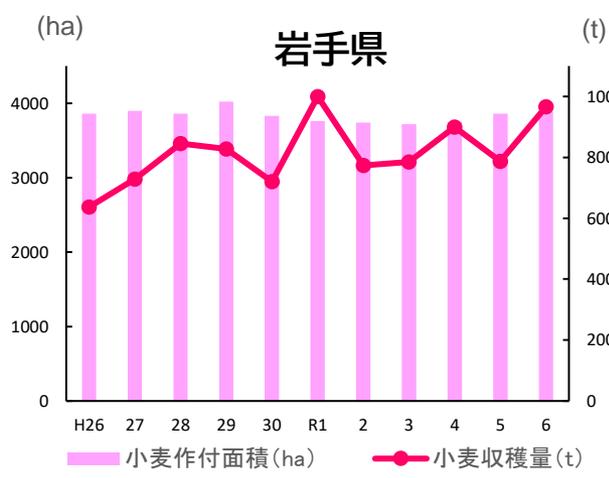
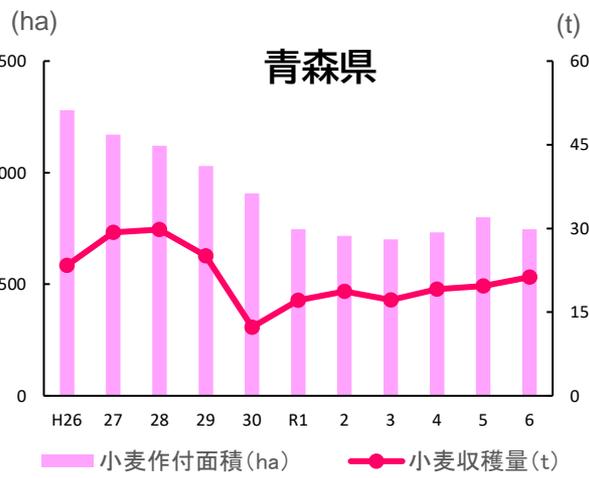


資料：農林水産省「作物統計」
 注1：「平均収量」は直近7箇年のうち最高及び最低を除いた5箇年の平均値
 注2：H30からR2の東北の六条大麦の10aあたり平均収量は事実不詳又は調査を欠くもので非公表



2-4 東北各県の作付面積と収穫量

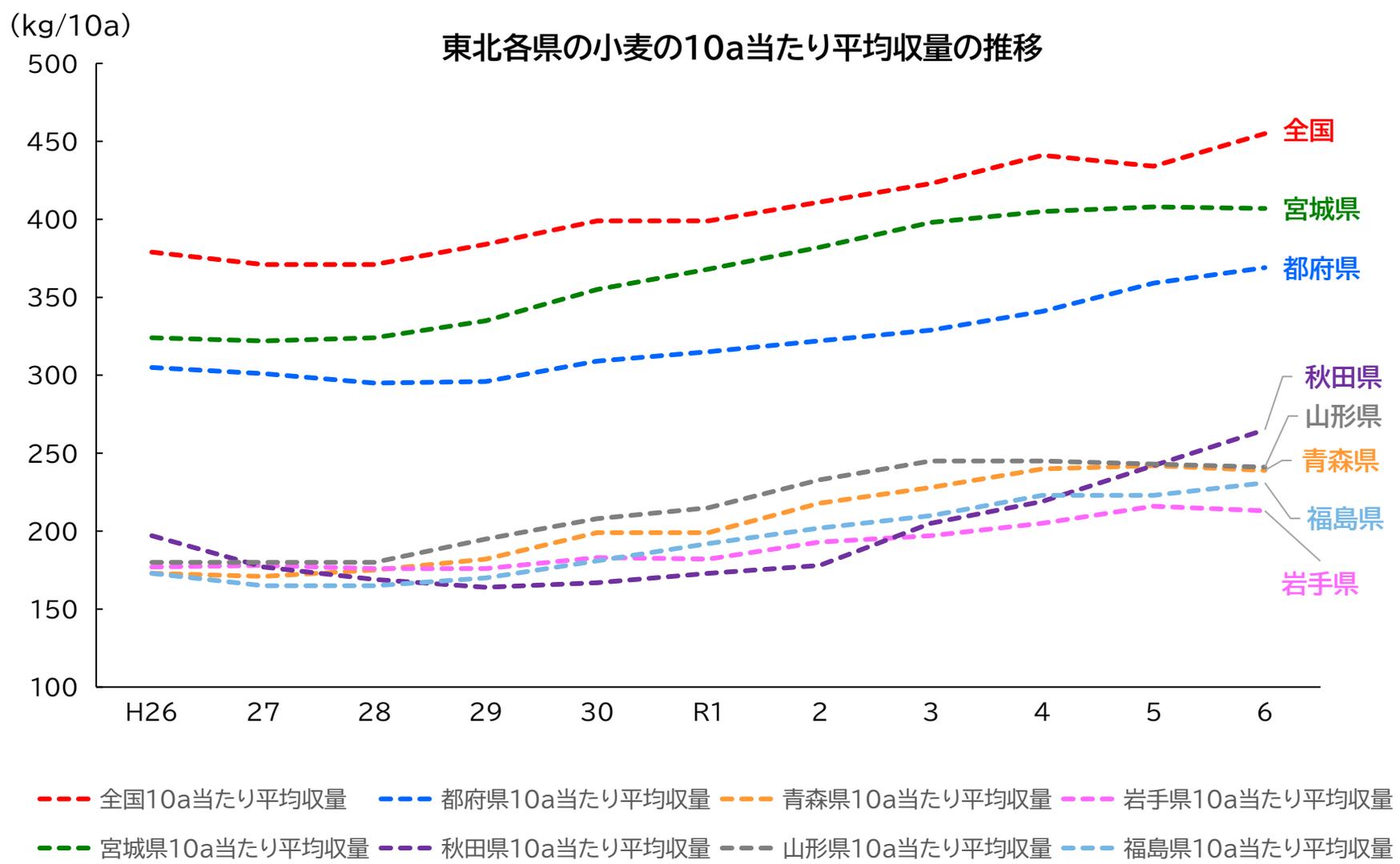
○ 作付面積は、岩手県及び宮城県が概ね横ばいで推移。青森県、秋田県及び山形県では令和元年まで減少傾向であったが、それ以降は青森県及び秋田県では概ね横ばい、山形県は増加傾向で推移。福島県では平成26年以降増加傾向で推移している。



資料：農林水産省「作物統計」

2-5 東北各県の小麦の単収の推移 — 10a当たり平均収量 —

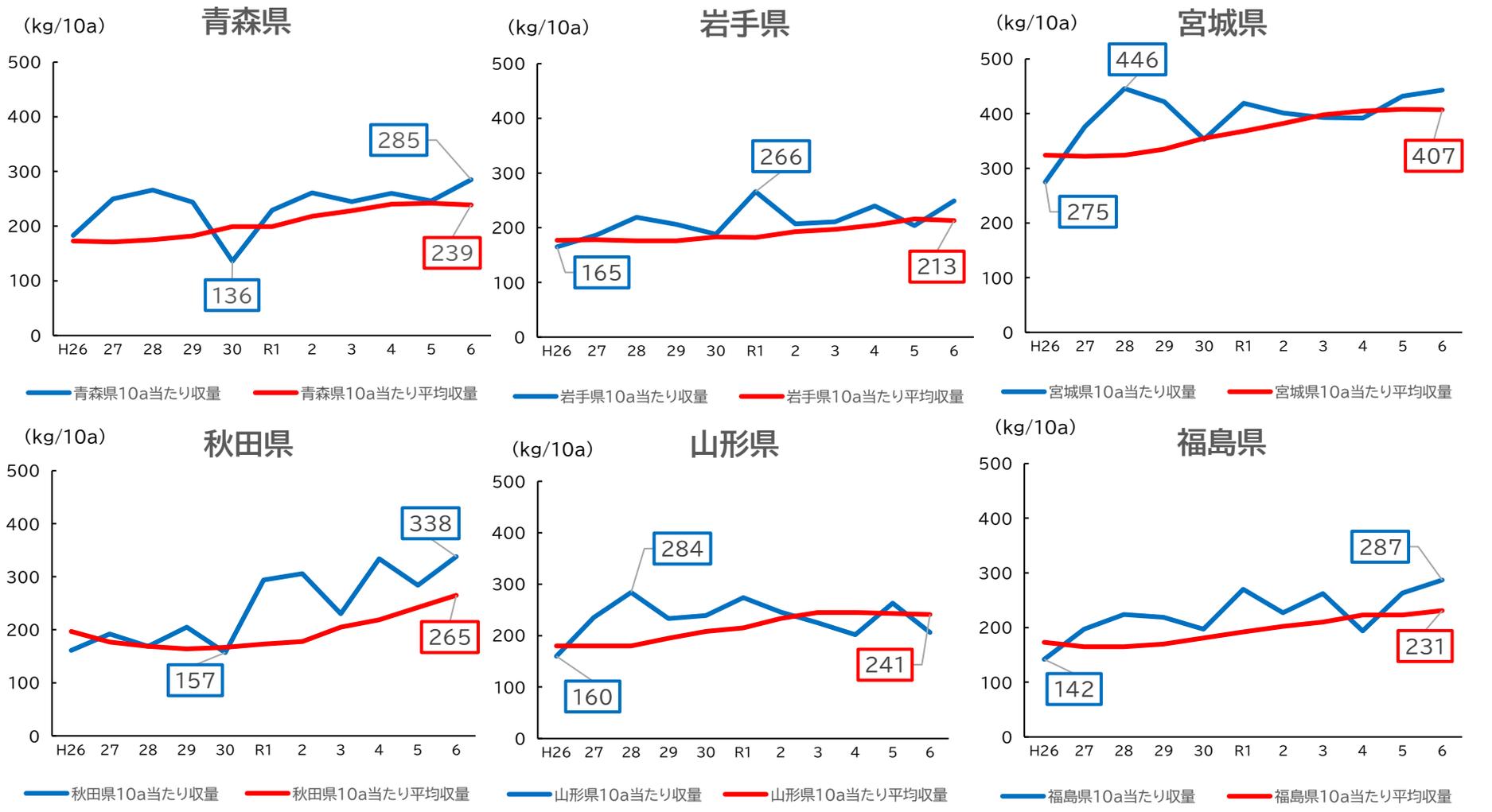
○ 小麦の10a当たり平均収量については、宮城県で都府県平均よりやや高い傾向で推移しているのに対し、その他の県では都府県平均を下回った状態で推移している。



資料：農林水産省「作物統計」
注：「平均収量」は直近7箇年のうち最高及び最低を除いた5箇年の平均値

2-6 東北各県の10a当たり収量と平均収量の推移

- 小麦の10a当たり平均収量は、宮城県は300~400kg前後とやや高い傾向で推移しており、秋田県及び福島県は増加傾向で推移している。
- 10aあたり収量は各県・年次ごとの変動が大きい。



資料：農林水産省「作物統計」
 注1：「平均収量」は直近7箇年のうち最高及び最低を除いた5箇年の平均値
 注2：囲み数字はR6年産10aあたり平均収量及び各県の10aあたり収量の最高・最低値

2-7 小麦の単収ランキング ー上位と東北各県 ー

- 全国的にみると、北海道と愛知県の単収が安定して高い状況にある。
- 東北地域においては近年、宮城県の単収が安定して高く、次いで秋田県という状況が続いている。他4県については単収の順位変動もあるが、時に全国の中でも順位が低い年もある。

順位	都道府県	(kg/10a)
1	北海道	541
2	愛知	473
3	宮城	443
9	秋田	338
19	福島	287
21	青森	285
29	岩手	249
35	山形	206
全国		444
都府県		315
東北		292

順位	都道府県	(kg/10a)
1	愛知	575
2	北海道	542
3	愛媛	464
4	宮城	432
28	秋田	284
31	福島	263
32	山形	263
34	青森	246
38	岩手	204
全国		472
都府県		379
東北		257

順位	都道府県	(kg/10)
1	愛知	511
2	北海道	470
3	佐賀	468
10	宮城	392
21	秋田	334
29	青森	260
34	岩手	240
39	山形	202
41	福島	194
全国		437
都府県		392
東北		267

3 東北の麦作における水田作割合と営農排水対策の実施状況

- 東北地域における麦作は、水田作における転作作物としての作付が大部分であり、麦作付面積の約9割が水田作である。
- 麦は湿害に弱いことから、特に水田作においては排水対策が重要であり、明渠の整備率は高い県が多いものの、心土破碎や弾丸暗渠等の実施率は高くなく、県間でのばらつきもみられる。依然として湿害に悩む生産者が多いことから、各ほ場の条件に適した排水対策を行うことが重要である。

4 麦作付面積の田作割合(令和6年度)

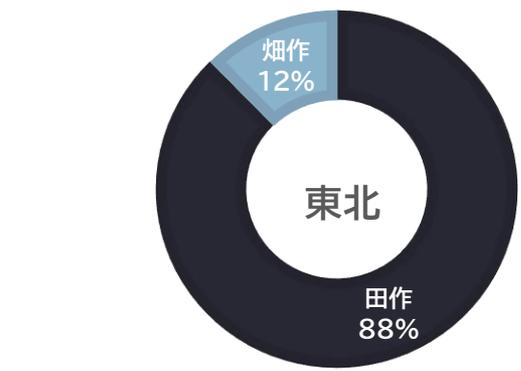
	4麦作付面積 (ha)	うち	田作割合
		田作面積 (ha)	
全国	296,830	190,600	64%
都府県	163,070	154,270	95%
東北	8,507	7,457	88%
青森県	820	510	62%
岩手県	3,963	3,525	89%
宮城県	2,682	2,632	98%
秋田県	310	296	95%
山形県	150	98	65%
福島県	582	396	68%

湿害による影響

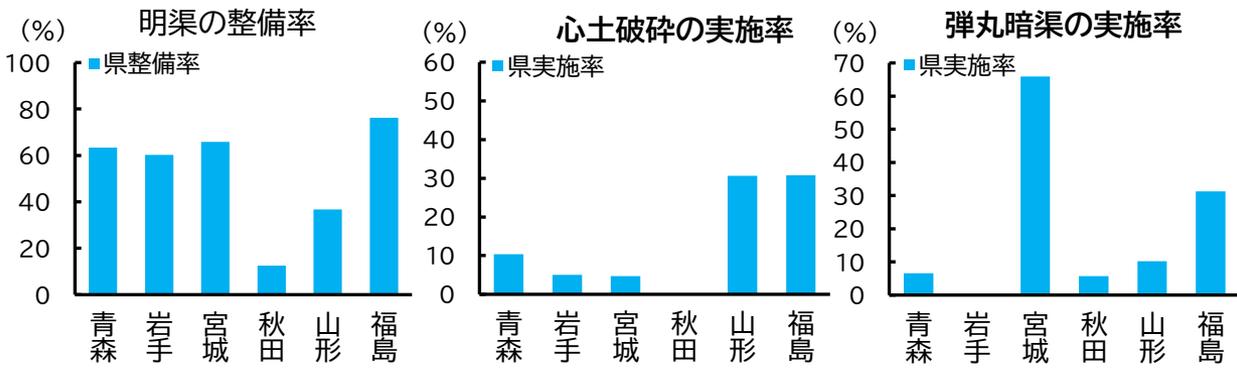


営農排水対策を実施したほ場(左)と未実施ほ場(右)

資料: 診断に基づく小麦・大麦の栽培改善技術導入支援マニュアル(農研機構)



水田作麦の営農排水対策の実施状況(令和6年度)



資料: 東北農政局生産振興課調べ

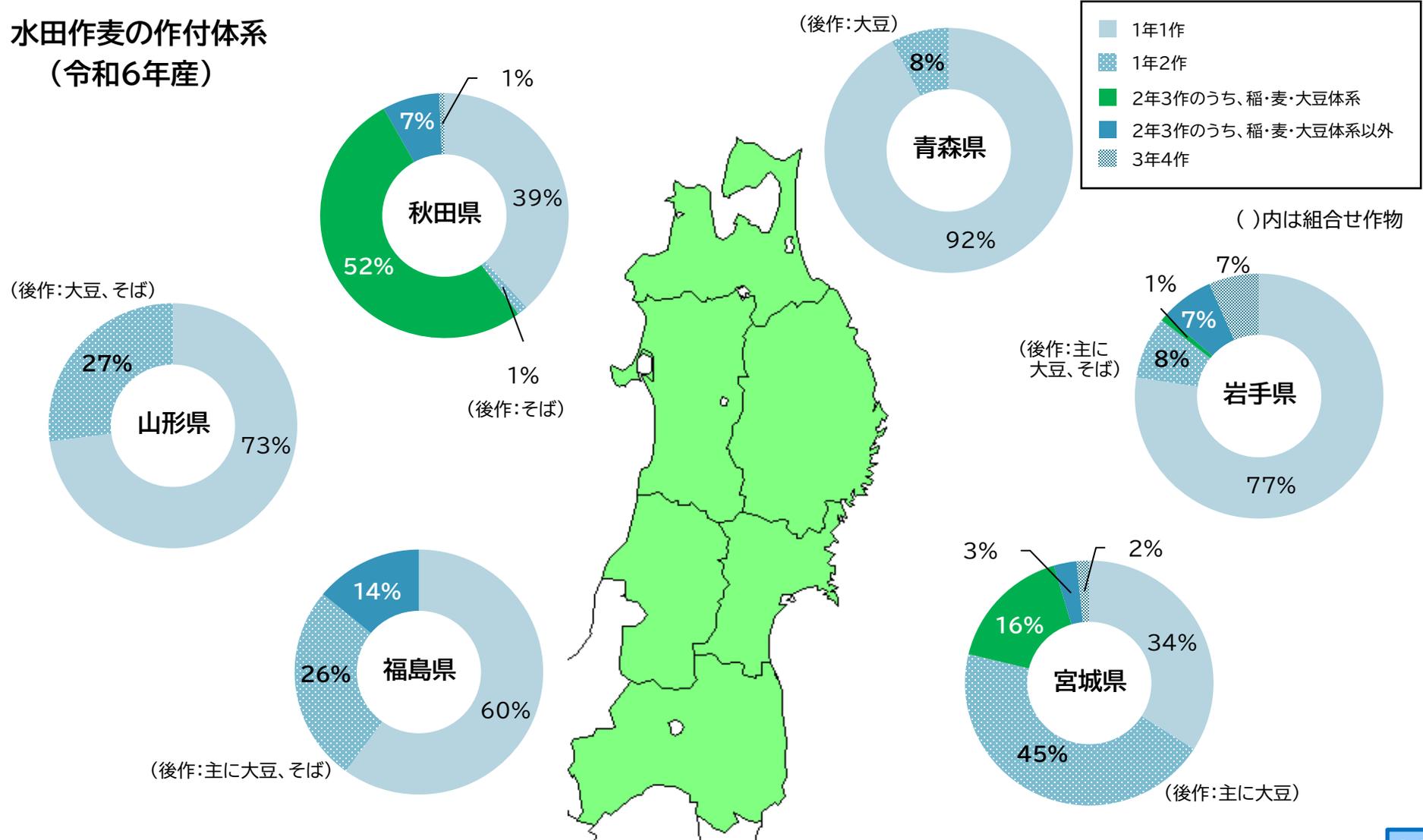
注: 実施率・整備率は、4麦作付面積のうち田作面積における当該対策の割合

資料: 東北農政局生産振興課調べ

4 東北各県の麦作における作付体系

○ 水田作麦の作付体系は、宮城県及び秋田県を除く4県で1年1作体系が半数以上を占める。宮城県においては大豆と組み合わせた1年2作体系、秋田県では稲・麦・大豆による2年3作体系の導入割合が東北他県と比較して高い。

水田作麦の作付体系
(令和6年産)



資料：東北農政局生産振興課調べ